

令和5年度 学校経営方針と重点

1 経営の基本的な考え

(1) 社会状況の捉え

- ・ Society 5.0の到来
- ・ 国際化・高度情報技術の進展
- ・ 少子高齢化や核家族化の進行
- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類移行
- ・ 政治の混迷
- ・ 世界不況による雇用不安
- ・ 市場原理・自己責任論の闊歩
- ・ 雇用危機による格差社会の拡大

先が見えない社会、将来が見いだせない不安感、閉塞感が漂う中、地域の協同性は弱まり、安全・安心は脅かされ、人間としての尊厳、精神的豊かさや社会的な自立までも奪う社会になりつつある。特に若者が将来の夢、希望が持てない状況が深刻化している。

(2) 子どもたちの状況の捉え

- ・ 情報に対する収集能力の向上と選択能力の未熟さ、情報モラルの乱れ
- ・ 「不登校」「いじめ」が多くの学校で課題化。「学力の二極化」や「学びからの逃走（学ぶ意欲の減退）」の広がり
- ・ 「自己肯定感（自尊感情）」の減退
- ・ 生命の軽視、人間関係の希薄化（悪しき序列・慣習、自他の良さを共有できない弱さ）。
- ・ 規範意識の欠如
- ・ 基本的な生活習慣の未確立
- ・ 体力低下
- ・ 家庭環境の悪化（家庭の教育力の低下、多様な価値観、学校依存の進行）

不透明を増す社会情勢の中で、人間形成において危機的な状況にあり、内に「いらだち」「不安」・「自己喪失感」などを潜めるとともに、それらに相対するように同居する「生命」や「生き方」に対する問いへの叫びをあげている。自殺者の増加

ここ数年、多くの長期欠席生徒が続いており、「最重点課題」と取り組んでいる。欠席の理由のさまざまであるが、学校（集団）不適應の傾向は強い。小学校時の長期欠席児童であった生徒は、学年が上がるにつれ、その傾向は極めて強くなり、学校や大人（教師）への不信感が要因であるケースも多い。登校させることだけが目的ではなく、当該生徒の「困り感」を共有し、学びを止めない（関わりが切れない）アプローチが求められる。

(3) 教育の課題 【今、本校がなすべき教育】

今、本校がなすべき教育は、「子どもは一人一人違う、かけがえない存在」であることを教育の基底に捉え、温かさと厳しさ、学びと感動がある人間教育の中で、自他の人間的理解を深め、共に生きる豊かな人間関係づくりを通し、人間としての尊厳と自立を持ち、次代を担う社会の創り手としての資質を育むことである。

そのためには、生きる力の理念に基づく確かな学力の定着と豊かな心・健やかな身体の育成を図る教育を実践するため、すべての子どもたちに学びの場の保障は我々の責務でもある。

具体的には、

- ・一人一人の発達課題を明確にし、その課題解決を支援する教育
- ・自立のための生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな身体）を獲得させる。
- ・豊かな人間関係を構築させる教育
- ・感動と成就感を実感させる教育
- ・自律的学校運営に基づく信頼される教育

2 校内人事に係る前年度との主な変更点

(1) 校内委員会等については、名称、構成メンバーを次のとおりとする。

① 運営委員会

◎教頭、校長、教務主任、校務部長、学年主任（特支を含む）

② 各種校内委員会

・教育課程検討委員会

◎教務主任、校長、教頭、学年主任、特学主任

但し、学力向上に関する案件の場合は、

◎研修部長、校長、教頭、教務主任、学年主任、教科部長

・生徒指導対策委員会

◎生徒指導主事、校長、教頭、学年主任、特学主任、不登校対策支援員、SSW、特別支援教育コーディネーター（必要に応じて、学級担任、養護教諭、等）

・校内教育支援委員会

◎特別支援教育コーディネーター、教務主任、校長、教頭、学年担当、生徒指導主事、養護教諭、不登校対策支援員、特別支援教育支援員

・学校保健委員会

◎保健主事（養護教諭）、校長、教頭、教務主任、保健体育科部長

・校内推薦委員会

◎進路指導主事、校長、教頭、生徒指導主事、学年主任、3学年職員

・修学旅行等検討委員会

◎教務主任、校長、教頭、学年主任、特学主任

・部活動スポンサー会議

◎生徒指導部部活動係、生徒指導主事、部活動顧問
(臨時の場合は、校長・教頭も入る)

・ICT活用委員会 (ICT機器の利用促進、環境整備)

各学年及び特別支援学級代表 1 名

③ いじめ対策委員会 (特別委員会としての位置付け)

◎生徒指導主事、校長、教頭、学年主任、特学主任、生徒会部長、養護教諭
(必要に応じて) 学級担任、心の教室相談員、SSW等外部の関係機関

(2) 司書教諭及び校務分掌の業務等については次のとおりとする。

① 司書教諭

その専門性を生かし、機能させるために、図書常任委員会の指導を担当する (生徒用図書の購入に係る業務を含む)。但し、教師用図書の購入については、教職員の研修を目的としていることから、これまでどおり研修部が担当する。

日新小学校図書ボランティアとの連絡・調整、実務等についても担当する。

② 校務分掌

各校務分掌の構成員の数については、次のとおりとする。

- ・教務部 7名 ・生徒指導部 7名 ・生徒会部 4名
- ・研修部 3名 ・保健部 2名
- ・PTA管理部 5名

③ その他

各校務分掌内における業務の新設並びに分担については、業務量の平準化を意識しながら各部の部長 (主任) を中心に協議し、決定する。

(3) 部活動については次のとおりとする。

今後の「地域移行」や生徒数の減少に伴う学級、や定数加配の削減等による教職員の減少を見据え部活動の設置の在り方について協議していく。

① 部活動ガイドラインに基づく活動を厳守する。

② 部員数や顧問等から、見通しを持って地域部への転換を検討する。

3 学校経営の方針

(1) 経営の信条

- **生徒のために学校はある**
 - ▷ 子どもにとって**楽しく学びがいのある学校**
 - ▷ 子どもの置かれている状況から目を離さず、一人一人を**主役にした**（大切にした、中心に据えた）**創意ある教育活動の協働実践**ができる学校
- **保護者、地域の理解と協力で支えられて学校がある**
 - ▷ 保護者、地域にとって**安心して学ばせたい信頼**できる学校
 - ▷ 受信・発信機能が充実した**開かれた学校**
- **教職員の使命感を基盤として学校がある**
 - ▷ 教職員にとって**豊かな発想を生かした働きがいのある学校**
 - ▷ 全教職員が**信頼と敬愛に満ちた人間観**を基盤に英知出し合い、**組織体としてのまとまりや指導の一貫性、**運営の機動性をもって教育活動に取り組む学校
 - ▷ 「**質の高い教育活動**」を実践するための働き方改革を推進する学校

(2) 経営の基本姿勢

全教職員が教育に携わるものとしての**使命を自覚し、教育の「不易」と「流行」を見失うことなく、生徒起点で英知を出し合い、組織体としての機能性・協働性・機動性を発揮し、明倫中学校ならではの「創造性豊かな教育実践」**を不断に展開できる組織運営を経営の基本姿勢とする。

(3) 経営の重点実践事項（今年度、特に本校が目指す教育の重点実践事項）

重点1 生徒起点（その子起点）で、自立への力を育む教育の実践

- 自己肯定感（自尊感情）を育み、自己指導力の育成（学校の凡事徹底を図り、規範意識の高揚）、**社会へのスタートラインに繋ぐ学校教育の実現**
 - ▷ 社会性をつくる
- 「わかる・できる・楽しい」の実感、「やろう」という意欲をつくる授業づくりと家庭学習の習慣化
 - ▷ 確かな学力の定着、**個の自立に向けた学びの場の保障**
- 自他の生命を思いやり、健康な心身、豊かな人間関係を育む授業・活動づくり
 - ▷ 豊かな心・健やかな身体をつくる
- 向き合い、交わり、責任と協働で創り出す感動と成就感あふれる活動の組織化
 - ▷ 集団をつくる

重点2 受信・発信機能を充実させ絆を深め信頼される学校運営

- 知・徳・体の発達を補填する学校（子どもの発達・成長が見える）
- 説明責任、結果責任を誠実に果たす学校
（こんなことを、このように、こうやった、その結果はこうだ）
- 家庭・地域との絆を大切にする学校
（願い・要望に耳を傾け、誠実な対応と貢献）
- 組織マネジメント機能の充実した学校
（スピード感あるPDCAサイクルの内容的な充実）
- 安心・安全を補填する学校

重点3 教職員としての使命と自覚と専門職としての資質・能力の向上

- さらなる豊かな人間性形成への努力
- 信頼と敬愛のある人間関係に満ちた職場づくり
- 教職員としての率先躬行の実践
- 教育活動を拓く指導力（授業、生徒指導、校務分掌）の向上
- ひびきあう協働性と同僚性の発揮
- 組織体としての機能性と機動性の充実（迅速・的確に対応できる体制）
- 「質の高い教育活動」を実践するための働き方改革の推進

(4) 具体的再重点取組事項

【令和5年度 苫小牧市立明倫中学校 教育推進の最重点】

**「夢へのスタートラインにつなぐ魅力ある教育活動の展開」
～ 誰一人取り残さない幸福度の高い学びの場の創造 ～**

1 子ども同士や教師と生徒の絆づくり

- ・生徒が互いを認め合う活動
 - ・自己有用感や自己肯定感を育む活動
 - ・特別活動や道徳教育の充実
 - ・社会的能力（社会性）の育成
- ◎日々の教師と生徒のふれあい
◎教育課程検討委員会の充実
- ◆「学校が楽しい」と感じる生徒の割合が30%以上
 - ◆長期欠席生徒数前年比1割減

2 豊かな学級(居場所)づくり

- ・生徒とともに感じ、考える姿勢
 - ・いじめを許さない集団の姿勢
 - ・「できること」をスピード感をもって対応
 - ・誰一人取り残さない多様な居場所づくり
- ◎不登校生徒への支援の充実
◎生徒指導対策委員会の充実
- ◆長期欠席生徒への手立て100%
 - ◆長期欠席生徒数前年比1割減

3 わかる・できる・楽しい授業づくり

- ・ICTの効果的な利活用を含めた授業改善の推進
- ・成功体験や学びの交流活動の創出
- ・指導の個別化、学習の個性化、「学び方」を教える授業へ変換
- ・教師の言葉の精選（説明・指示）から生徒の活動時間の確保

- ◎市内共通取組事項の徹底
- ◎授業での教師の言葉10%カット
- ◎1人1回公開授業

- ◆「焦点化」「イメージ化」「視覚化」の授業100%
- ◆長期欠席生徒数前年比1割減

4 特別支援教育の推進

- ・特別な配慮や支援を要する生徒の見取りと組織的対応
- ・ユニバーサルデザインの視点による生徒理解、授業づくり、学級づくり
- ・「よさ」や「違い」を認められる学校風土の構築及び教師の専門性の向上

- ◎全校統一した教室設営
- ◎校内教育支援委員会の充実
- ◎特別支援教育に関わる研修会の開催

- ◆特別支援教育に関わる研修会の参加100%
- ◆長期欠席生徒数前年比1割減

※ 「夢へのスタートラインにつなぐ」とは、生きる力を原動力にした15歳の子どもたちが、義務教育終了後の夢の実現に向かうこと。

※ 「幸福度の高い学び」とは、自ら考え、判断し、行動することを通して、自己有用感や自己肯定感を実感し「明倫中学校で頑張った、やり切った」「明倫中学校を卒業してよかった」と思える学びのこと。

※ 「学び」とは、単に主体的・対話的で深い学びの学習活動のみにとどまらず、他者との関わりから感じ考えること、成功や失敗の体験等、自立のために必要なあらゆる資質・能力を育む営み。

※ 「多様な居場所づくり」とは、通常学級、通級指導教室、ステップアップ教室(校内教育支援センター)、苫小牧市教育支援センター、フリースクールの活用、ICTの活用等、自立に向けたその子に応じた学びを繋ぐこと。

「誰一人取り残さない幸福度の高い教育の創造

義務教育の第2ステージである中学校での教育活動のゴールは、小学校での学びを引継ぎ、自己実現に向けた夢へのスタートラインでもある。その大切な中学校生活だからこそ、誰一人取り残さない幸福度の高い教育が求められる。

子どもにとって、学校・教師・友達に魅力があれば、生徒は登校する。その魅力ある教育活動を展開するために、①絆づくり、②学級（居場所）づくり、③授業づくり、④特別支援教育の推進を最重点としていきたい。そうすることによって、「明倫中学校で頑張った、やり切った」「明倫中学校を卒業してよかった」と幸福度の高い学びが創造できると確信している。

また、そのような営みの中で、生徒を中核とした学校・保護者・地域との信頼関係（寄り添い、ともに考える）が構築でき、誰一人取り残さない幸福度の高い教育が創造できると考える。

(5) 具体的重点取組事項

① 不登校生徒への支援の充実

- ・生徒、保護者の困り感を感じ、ともに考え、よりよい方法を見つけ出す姿勢を大事にする。
- ・「学びを止めない」を最優先に、生徒・学校ともに「できること」をスピード感をもってやってみる。
- ・通常学級、通級指導教室、ステップアップ教室（校内教育支援センター）、そして苫小牧市教育支援センター等、自立に向けたその子に応じた学びを繋ぐ。

学級担任のみの判断にせず、生徒・保護者の困り感を学校全体で共有する。（毎週の生徒指導対策会議）学校と生徒・保護者の関係が途切れることなく、ともによりよい方法を見つけ、やってみることを大切にする。

② 学力・体力の向上

- ・教務主任、研修部長が一体となり、教育課程検討委員会の機能を活かしながら、教科部会との連携により、学力向上のための具体的な取組を行う。
- ・放課後学習や長期休業中の学習サポートを計画的に進める。
- ・家庭との連携を図りながら、家庭学習の定着率を高める取組を行う。また、授業との関わりを重視した宿題や課題の与え方の工夫に取り組む。
- ・小・中学校間の接続した学習指導の連携を図る。
- ・保健体育科の授業における目標の提示と振り返りを確実に位置付け、授業を通じて身に付けるべき力を意識させる。
- ・運動やスポーツに親しむことができる機会を設定し、体力と運動能力の向上に対する生徒の関心を高める。

個別最適な学びと協働的な学びの充実、1人1台端末の効果的な利活用、運動の楽しさを体感する機会の保障

③ 特別支援教育の充実

- ・特別支援教育を取り巻く情勢についての理解や障がいの種別に応じた具体的な支援の在り方などについての理解に努める。
- ・通常学級、通級指導教室、特別支援学級、校内支援教室（ステップアップ教室）等、配慮が必要な生徒や困っている生徒に対しての「学びを止めない」環境づくりを構築する。
- ・特別支援学級における教育課程を適切に編成し、実施する。
- ・通級指導の生徒との連携に努める。

ユニバーサルデザインの視点による生徒理解、授業づくり、学級づくり

④ 豊かな心の育成

- ・受容的な姿勢・態度を原則とした生徒指導を行う。
- ・学年・生徒指導部を中心に不登校生徒、あるいはその心配のある生徒への支援の在り方について検討し、具体的な取組を行う。また、関係機関との連携により、家庭への支援を行う。
- ・いじめの撲滅のために、生徒による主体的な取組を指導・支援する。いじめが起きた場合は、その解消に向け適切かつ迅速な対応に努める。いじめは絶対に許されない行為であるという意識を生徒に浸透させるための取組を工夫する。

「困っています」と言える人間関係の構築、一人の生徒にチームとしての対応、生徒に考えさせる・判断させる力を育む

⑤ 学校と地域の連携・協働の推進

- ・総合的な学習の時間におけるキャリア教育を生徒の発達段階に応じて、計画的・系統的に行う。
- ・外部講師を活用した学習機会について積極的に見直しを行い、学習に対する生徒の興味・関心をより一層高める学習機会の設定に努める。
- ・学校が保護者や地域に発信する情報の正確性を期すとともに、その内容に対する関心を高めてもらうために、保護者や地域に対して直接説明する機会の拡充を図るとともに、ホームページのタイムリーな更新に努める。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）がより子どもたち・保護者・教職員・地域にプラスになる取組の検討

⑥ 学校段階間の連携・接続の推進

- ・子どもたちの実態に応じたエリアが目指す15歳の姿の再検討及び焦点化
- ・エリアが目指す15歳の姿をつなぐカリキュラムマネジメントの構築
- ・子どもたち一人一人を知るための積極的なアプローチ

生徒理解、個別入学相談会、乗り入れ授業

⑦ 働き方改革の推進

- ・「北海道アクション・プラン」や「苫小牧市の部活動のあり方に関するガイドライン」

に基づく部活動における休養日の設定や練習時間の適正化を図り、職員の時間外勤務を軽減することを通じて、職員の心身の疲労を軽減する。また、生徒の健康面に係る配慮や家庭における時間を確保する。（明倫中学校の部活動に係る活動方針を参照）

子ども・教職員にとって必要な活動を焦点化し、業務の精選を検討
教職員の意識改革（自分事、説明責任、職能レベル）